

平成26年度 公益財団法人浜松市医療公社事業計画

1 目的

この法人は、浜松市及びその周辺の地域住民に対する公衆衛生の向上及び地域医療の連携強化を推進し、もって住民の健康及び福祉の増進に寄与することを目的とする。

2 基本方針

公益財団法人浜松市医療公社は、浜松市から浜松医療センターの事業委託を受ける指定管理者団体として指定されており、当該指定期間である平成23年度から平成27年度までの5カ年のうち4年目を迎え、この間、次に掲げる基本方針に沿って事業の適切な運営を行っている。平成26年度は電子カルテシステムを更新することにより、安全で質の高い医療をより効率的に提供していくための環境を整備し、さらには経営指標の分析、課題抽出、調達支援業務の導入など経営の安定化を図る。

- (1) 公益性と経済性の調和を図り、市民本位の利用と健全な経営に努める
- (2) 地域から期待される役割・機能を効果的に発揮するため、事業を重点化し、特色のある病院運営を行う
- (3) 地域の中核病院として、医療の質と安全の向上に努め、利用者が安心できる医療サービスを提供する

3 事業

- (1) オープンシステムによる地域診療所等からの不特定多数の紹介患者の診療
- (2) 地域診療所等への手術設備、高度医療機器及び病床の提供
- (3) 地域医療支援病院として診療所等との連携及び機能分担の推進
- (4) 地域の救急医療の提供及び小児・周産期医療の確保
- (5) 災害拠点病院として医療救護活動の実施
- (6) 感染症指定医療機関として疾病対策の実施
- (7) 地域性を考慮した特定健診、がん診療、生活指導等の実施
- (8) 地域住民の健康増進及び疾病予防のための公衆衛生活動の実施
- (9) 医学及び医療の向上に関する調査・研究の実施
- (10) 臨床研修指定病院として臨床研修医に対する教育研修の実施
- (11) 大学の関連教育病院として学生に対する教育研修の実施
- (12) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

4 病院基本理念

安全・安心な、地域に信頼される病院

5 病院基本方針

- (1) 患者の権利と尊厳を尊重し、患者中心の安全・安心な医療を提供します
- (2) オープンシステムを活用し、地域医療連携ネットワークを強化します
- (3) 地域の救急・災害医療を支え、小児・周産期医療を守ります
- (4) 時代の要請に応えた高度・先進医療を推進します
- (5) 医療に関する調査・研究を推進し、国内外に情報を発信します
- (6) 職員の教育・研修に努め、国際的に通じる真の医療人を育成します
- (7) 効率的な病院経営に努め、健全な財政基盤を確立します

6 平成26年度病院目標

- (診療) 地域医療連携と患者サービスの充実 (開業医からの紹介患者の増加を図る)
 (経営) 病院の経営力を高める (収入増加策と経費削減策を確実に策定する)

7 当院の課題と可能性 (当院のSWOT分析)

内部環境 (病院内) 分析	1. 強み (Strength) ※他医療機関よりも優れている点、整っている分野等	2. 弱み (Weakness) ※内部で抱えている問題点等
	<p>【当院の地域における疾患別シェア率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「血液系」「新生児系」「乳房系」「呼吸器系」「内分泌系」「小児系」「循環器系」が高い ・循環器系疾患は、「急性心筋梗塞」「脳血管障害」が高い ・がんは、「急性白血病」「非ホジキンリンパ腫」「骨軟部悪性腫瘍」「膵臓・脾臓がん」「乳がん」が高い ・筋骨格系疾患は、「股関節症」が高く、市外からの患者割合が高い ・バースセンターの分娩件数は増加 <p>【診療科別収益構造】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「脳神経外科」「整形外科」「呼吸器内科」等は収益が高い <p>【現病院における指定等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救命救急センター、地域周産期母子医療センター、がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、地域医療支援病院、エイズ治療中核拠点病院など、地域の基幹病院としての役割 <p>【開放型7病院の比較】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急車搬送件数は2番目に多い(5,732件) ・紹介率も2番目に高い(84.8%) <p>【専門性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内で唯一、渡航前ワクチンの接種が可能 ・アレルギー学会(小児科)認定教育施設に認定され小児アレルギーに対する診療能力が高い ・歯科専用CTを導入している <p>【健診事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長い歴史があり、固定した受診団体・地域受診者がいる <p>【新病院構想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新病院建設構想」を策定するなど新病院建設に関する取り組みを進めている。 	<p>【当院の運営状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当院の救急車搬送件数は、近隣病院の救急車搬送件数の増加により減少傾向 <p>【当院の地域における疾患別シェア率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の患者数が多い「胃がん」のシェア率は、市内のがん拠点病院よりも低い <p>【開放型7病院の比較】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介率と比較して逆紹介率が低い <p>【専門性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・婦人科腫瘍専門医、婦人科内視鏡技術認定医、頭頸部がん治療専門医及び小児外科医の不在 <p>【施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内総合病院と比較して施設の老朽化が顕著 ・施設面における療養環境の低下が課題

外部環境（病院外）分析	<p>3. 機会 (Opportunity)</p> <p>※国の施策、他医療機関の動向など外部要因で追い風、チャンスとなるもの</p>	<p>4. 脅威 (Threat)</p> <p>※国の施策、他医療機関の動向など外部要因で向かい風、脅威となるもの</p>
	<p>【患者の流入・流出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の医療圏への流出がほぼなく、浜松市内で医療提供が完結 ・磐田市民病院がエイズ診療を中止したため中東遠地区からの流入が見込まれる ・当院以外の中東遠及び西部医療圏での常勤眼科医の不足 <p>【将来推計患者数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総数は、入院・外来ともに2025年まで増加傾向にあり、特に「循環器系」「悪性新生物（がん）」「筋骨格系」「消化器系」等の疾患が大きく増加 <p>【市内の主要死因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「がん」「心疾患」「脳血管疾患」で、全体の50%以上を占める <p>【地域医療機関の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜松医療センターに公的病院としての役割を期待しており、「救急医療」「脳血管疾患医療」「がん医療」に対して強く期待 	<p>【日本における2025年の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025年に向けて、急性期病床は高度急性期、一般急性期及び亜急性期等に区分され、それぞれ病床数も見直し（7対1病床は4割強削減） <p>【基準病床数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西部医療圏では、既存病床数が基準病床数を上回る状態 <p>【出生数・出生率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出生数及び出生率は、ともに減少傾向 <p>【地域医療機関との競合環境】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3次救急の実施病院の増加や改築整備等による近隣病院の機能の強化、充実 ・聖隷浜松病院が循環器センターを開設して以降、高いシェア率を維持している ・医療機関全体像として被認知度は聖隷浜松病院、聖隷三方原病院及び浜松医科大学附属病院の方が高い ・市内に大規模な健診施設が存在している <p>【現病院における指定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西部保健医療圏におけるがん診療連携拠点病院の認定施設数が、削減される可能性がある <p>【後方支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の後方支援病床として老人施設など2次施設（慢性期病床）の拡充が不透明

8 SWOT分析による整理

内部（病院内）環境分析における強みは、救命救急センター、地域周産期母子医療センターなど地域の基幹病院としての役割を果たしている点がある。弱みとしては、紹介率と比較して逆紹介が低い、がんのシェア率が市内のがん拠点病院よりも低いことなどがあげられる。

また、外部（病院外）環境分析の機会としては、市内診療所などが当院に公的病院としての役割を期待している。特に「救急医療」「がん医療」などに対して強く期待されていることがあり、脅威としては出生数及び出生率の減少、団塊世代が後期高齢者となる2025年問題などがある。

今年度はSWOT分析をもとに、地域の医療を担う基幹病院として救急医療、災害医療、がん医療の強化・充実、病診連携の推進などを基本とした事業展開を進める。

9 事業内容

(1) オープンシステムによる地域診療所等からの不特定多数の紹介患者の診療

- ア **充実** 定期的に関業医・診療所を訪問し、当院の特徴、新規治療の紹介、新規医師の着任紹介などを行い、当院の診療機能の広報を図り、医療連携体制の強化に努める
- イ 診療所や病院の特色を考慮した専門性の高い連携体制の緊密化を図る
- ウ **充実** 予約システムの更新により地域連携予約枠を専用化し、診療所からの紹介患者の円滑な予約取得を実行し、さらには、紹介入院・紹介外来に対する確実な返書管理の徹底を図る
- エ 病棟で実施している退院支援カンファランスを活用し、院内での医療連携に関する啓発活動の推進を図る

【関連指標】

項目	平成 26 年度 計 画	平成 25 年度 実 績 見 込	平成 24 年度 実 績
診療所訪問件数	30 件	30 件	—
紹介率※1	70.0%以上	69.8% (86.9%)	67.7% (84.8%)
逆紹介率	58.0%以上	57.1%	57.4%

※1 平成 26 年度より地域医療支援病院承認要件に係る紹介率計算方法が変更。カッコ内は旧計算方式。

(2) 地域診療所等への手術設備、高度医療機器及び病床の提供

- ア **充実** 頭部用血管造影装置及び全身用 X 線 CT スキャナー装置の更新など診療体制の充実を図り、地域医療支援病院として地域の開業医・診療所を支援する
- イ 公設病院として地域の医療供給体制を支える医師体制の充実を図る
- ウ **充実** 循環器系疾患に対する心臓 MRI や三次元マッピングシステムによる画像診断、カテーテル治療及びステントグラフト治療の充実など高度な診断・治療の整備強化を図る
- エ **新規** 脳神経外科及び整形外科領域に手術用ナビゲーションシステムを導入し、より安全で的確な診断・精度の高い手術を実施する
- オ **充実** 乳がんの乳房全摘手術後のインプラントによる乳房再建術を実施する
- カ **充実** 3 テスラ MRI 装置導入に伴い、画像診断における医師の読影技術や診療放射線技師の撮影技術の向上を図る
- キ **充実** 外科的手術後における誤嚥性肺炎等の合併症軽減を目的とした周術期口腔機能の維持管理の対象患者を拡大する

【関連指標】

項目	平成 26 年度 計 画	平成 25 年度 実 績 見 込	平成 24 年度 実 績
手術件数	5,500 件	5,304 件	5,571 件
開放型病院共同指導件数	1,100 件	1,057 件	1,132 件

【関連指標】

項目	平成 26 年度計画	
カテーテル治療件数	250 件	
胸部・腹部ステントグラフト手術	18 件	
手術用ナビゲーションシステムを使用した手術件数	脳神経外科	20 件
	整形外科	20 件
乳房全摘手術後のインプラント乳房再建術	6 件	
周術期口腔機能管理件数	150 件	

(3) 地域医療支援病院として診療所等との連携及び機能分担の推進

- ア 地域医療支援病院及び公設病院としての役割を踏まえた連携と分担の推進を図る
- イ 電子カルテを用いた情報の共有化による十分な協力体制を維持する
- ウ 医療連携の視点からのセカンドオピニオン外来の運営を引き続き実施していく
- エ 地域の開業医向けの研修として診療協議会を開催し、地域医師のための生涯教育活動を推進する
- オ 診療所医師との各疾患別勉強会の開催、講演会及びセミナー講師の積極的な受託など顔の見える関係を構築する
- カ 地域における切れ目のない医療を提供するため地域連携クリニカルパスの効率的運用を継続していく
- キ **充実** 平衡めまい外来、耳外来及び鼻外来などの新設、また、ペースメーカー外来の本格的運用など専門性の高い医療を提供する

【関連指標】

項目	平成 26 年度計	平成 25 年度実績見込	平成 24 年度実績
セカンドオピニオン相談件数	15 件	15 件	12 件
診療協議会開催回数	49 回	49 回	48 回
退院調整件数	7,500 件	7,407 件	6,476 件

(4) 地域の救急医療の提供及び小児・周産期医療の確保

- ア 救急患者の受け入れ体制を維持する
- イ 夜間救急など一次救急医療を担当する関係医療機関との連携を図り、引き続き二次救急医療及び三次救急医療の提供体制を維持する
- ウ 救急外来における救急患者の積極的な受け入れ拡大を図り、内科救急・蘇生講習会（JMECC）の自院開催など診療技術の向上に努める
- エ **充実** 救命救急センター 4 対 1 看護体制の整備による重篤な救急患者に対する質の高い医療の提供を維持する
- オ 専修医制度による医師確保など必要な新生児・小児救急体制を整備する
- カ **新規** 職員を対象とした小児アレルギー疾患勉強会の開催、保護者及び患者を対象とした小児アレルギー教室の開催など小児アレルギー診療の充実に努める
- キ 安全で安心して出産できる環境を提供するため、周産期センター、メディカルバーズセンター（めばえ）及び助産師外来の運営を行う

- ク **新規** 新生児の重症肺高血圧症に対するアノベントを用いたNO吸入療法（一酸化窒素吸入療法）を導入する

【関連指標】

項目	平成 26 年度計画
救急搬送件数	5,600 件
内科救急・蘇生講習会の開催件数	1 回
小児アレルギー疾患勉強会開催回数	1 回
小児アレルギー教室開催回数	1 回

(5) 災害拠点病院として医療救護活動の実施

- ア 災害拠点病院として被災地への職員派遣や地域内の重症・重篤な傷病者の受け入れ、搬出など災害時の医療救護活動において中心的な役割を担う
- イ 災害時に備えた医療資器材、医薬品、食料及び飲料水等の災害備蓄を確保する
- ウ 災害医療に関する職員研修及び医療救護を想定した訓練を実施する
- エ DMAT（災害派遣医療チーム）の機能維持を図るとともに訓練、研修会へ積極的に参加する
- オ **充実** 浜松地区人工透析施設災害時拠点病院として、施設整備及び市内人工透析施設との連携の強化を図る

【関連指標】

項目	平成 26 年度計画
災害訓練の実施回数	2 回
DMAT チーム数	2 チーム

(6) 感染症指定医療機関として疾病対策の実施

- ア 第二種感染症指定医療機関として、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき、必要な患者の入院を迅速に受け入れる
- イ エイズ治療拠点病院として、エイズ患者の受け入れ拡充を図る
- ウ インフルエンザワクチン及び海外渡航前の各種ワクチンの予防接種外来を継続する
- エ 院内感染サーベイランスの実施と感染率低減への活動を継続する
- オ 感染対策委員会による事例分析の検討と対策の徹底を図る
- カ 院内感染防止に関する研修会の実施による職員の教育、訓練及び啓発を図るとともに、院内感染対策マニュアルに基づいた適切な行動が出来る体制を整える
- キ **新規** 新たに J A N I S（厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業）へ参加することにより、国の院内感染の発生状況など概況を把握し、院内感染対策に有用な情報を医療現場へ提供する

【関連指標】

項目	平成 26 年度計画
ワクチン延べ接種回数	2,300 回
院内感染研修会開催回数	7 回

(7) 地域性を考慮した特定健診、がん診療、生活指導等の実施

- ア メタボリックシンドロームの予防に重点をおいた生活習慣病の予防のため特定健康診査（特定健診）・特定保健指導を実施する
- イ 子育て、介護、仕事、家事などで多忙な女性が、休日の日曜日に乳がん検診を受けられるジャパン・マンモグラフィーサンデー（10月第3日曜日）へ参加する
- ウ **充実** 地域がん診療連携拠点病院として、リニアックなどによる質の高い診断・治療の提供、外来化学療法室を活用したがん診療を実施する
- エ **充実** I M R T（強度変調放射線治療）の導入など各種がんに対する高度医療を提供する
- オ **充実** 西部医療圏の医療従事者を対象としたがんの早期診断、緩和ケアに関する研修会の開催及びがん患者の就労支援相談の充実など地域がん診療連携拠点病院としての機能充実を図る
- カ がん患者に対する緩和ケア専門チームの活動、総合相談支援室によるがん相談などの充実を図る
- キ 5大がん（肺がん、乳がん、胃がん、肝がん、大腸がん）における地域連携クリニカルパスを充実させることにより、症例数の拡大を図り、また、地域連携パスの範囲を広げることにより患者の受け入れ拡大を目指す
- ク **充実** 胆膵領域疾患に対する内視鏡検査（E R C P）、超音波内視鏡検査（E U S - F N A）及び早期胃がんに対する内視鏡治療（E S D）の件数増加に努める
- ケ **充実** 精度の高い地域がん登録の実施及び各種統計や分析を充実させるように取り組む
- コ がん治療において投与する薬剤の種類、量、期間及び手順などを時系列で示したレジメン計画書に基づいた外来化学療法の安全かつ円滑な施行に努める

【関連指標】

項目	平成 26 年度 計 画	平成 25 年度 実 績 見 込	平成 24 年度 実 績
特定健康診査受診者数	16,500 人	16,000 人	15,605 人
特定保健指導件数	100 件	90 件	106 件
外来化学療法実施件数	4,800 件	4,800 人	4,815 人
I M R T（強度変調放射線治療） 件数	40 件	—	—
がん相談件数	2,500 人	2,450 人	2,914 人

【関連指標】

項目		平成 26 年度 計 画
西部医療圏の医療従事者を対象としたがんの研修会の開催回数		4 回
地域連携クリニカルパス件数	胃がん	10 件
	乳がん	55 件
	肝がん	3 件
	大腸がん	20 件
	肺がん	4 件
E S D（内視鏡的粘膜下層剥離術）治療件数		40 件

(8) 地域住民の健康増進及び疾病予防のための公衆衛生活動の実施

- ア 高齢化・生活習慣病の増加を踏まえ、一般健診、がん検診及び人間ドックの受け入れを実施し、疾患の予防、早期発見を推進する
- イ **充実** オプション検査として血圧脈波検査を追加するなど、付加検査を含む人間ドック及び一般健診の拡充を図る
- ウ 市民公開講座など市民を対象とした講演会の開催を行うと共に、適切な医療情報を提供し、疾病予防や健康への知識の向上を図る
- エ **充実** 病院ホームページの随時更新や病院広報誌の充実により、病院の機能や診療の状況など適切な情報提供を行う

【関連指標】

項目	平成 26 年度 計 画	平成 25 年度 実 績 見 込	平成 24 年度 実 績
人間ドック受診者数	500 人	480 人	442 人

(9) 医学及び医療の向上に関する調査・研究の実施

- ア **充実** J A L S G（造血器研究グループ）、J-ADNI-2（軽度認知障害を対象とした臨床研究）など臨床研究事業への参加・症例登録などの推進を図り、「とおとうみ臨床試験ネットワーク」への継続的な参加など治験実施件数の増加に努める
- イ 一般財団法人浜松光医学財団とのPET診断センターにおける診療及び研究の連携事業を継続して行う
- ウ 臨床研究の促進のため、治験・臨床試験に係る医師の負担軽減を図り、治験を受託しやすい環境を整え、新規治験受託件数を増加させる
- エ 病院学術誌を継続的に発行する

【関連指標】

項 目	平成 26 年度 計 画
新規治験受託件数	5 件

- (10) 臨床研修指定病院として臨床研修医に対する教育研修の実施
- ア 臨床研修指定病院として、シミュレーションセンターの活用を更に進めるなど初期研修機能体制を強化し、臨床研修医（医師免許取得後1年次及び2年次）への適切な教育研修を実施する
 - イ **充実** 医師臨床研修に係る指導医講習会を自院開催し、院内医師を多数参加させることにより指導医数の増員を図る
 - ウ 平成27年度の研修から適用される医師臨床研修制度の改正に適応するため、プログラム責任者を中心として、臨床研修プログラムの整備及び臨床研修評価システムの再構築を図る
- (11) 大学の関連教育病院として学生に対する教育研修の実施
- ア 浜松医科大学の関連教育病院として医学部学生の臨床実習を行い、看護師養成施設への講師派遣及び看護実習生の受け入れ協力を行う
- (12) その他この法人の目的を達成するために必要な事業
- 医療の質、患者サービスの向上
 - ア 安全で良質な医療を実現するために、呼吸サポートチーム、栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、感染対策チームなどのチーム医療の活動を引き続き推進し、専門職種の積極的な活用及び多職種間の協働を図ることにより、職種間の連携緊密化を進め、患者ニーズに合った診療体制を構築する
 - イ インフォームド・コンセントの充実、徹底を図り、治療方針や経過など患者及び家族に対しわかりやすい説明に努める
 - ウ STASスクリーニング（緩和ケアの質評価ツール）の精度向上を図り、がんによる苦痛患者の掘り起こしと苦痛症状の緩和を促進する
 - エ 身体の病気に伴って起こる様々な精神的、心理的な問題への支援を行うために、精神科担当看護師を含めた精神リエゾンチームの設置を検討する
 - オ **新規** DWH（データウェアハウス）システムを用いて病院機能や診療状況を統計・数値化した臨床指標（クリニカルインディケータ）を策定し、他医療機関の成績と比較することにより、診療の質の向上に役立てる
 - カ 医療機器の耐用年数、稼働状況及び近隣病院の医療機器の整備状況を考慮した計画的な医療機器の更新を行う
 - キ 患者満足度調査や「患者のみなさまの声」から患者ニーズをいち早く把握し、病院の利用環境などについて、柔軟かつ迅速な対応を行う
 - ク 医療サービス向上委員会を中心として、外部の専門的な講師を招聘し、職員の接遇・応対に関する研修会を開催するなど、職員の接遇意識の向上に努め、また、職員接遇マニュアルの見直しを図る
 - ケ **充実** 新予約システムの導入による待ち時間の短縮化、携帯電話による順番案内サービスや患者図書室の充実などによる待ち時間の負担感軽減など一層の改善に取り組む
 - コ **充実** 患者のプライバシーに配慮したきめ細やかな問診や丁寧な検査説明を行うため、問診・検査説明コーナーを充実するなど院内の環境整備を推進する
 - サ 出産された方のお子さんの誕生のお祝いとして、「出産お祝い膳」の提供を検討するなど食事サービスの向上を図る

○安全な医療の推進

- ア 定期的な医療安全に係る情報の収集、分析、対策の評価及び結果の検証を行うとともに、院内ラウンドを継続的に実施する
- イ 医療安全推進マニュアルを必要に応じ随時改訂する。また、現場安全管理者への教育や医療安全に関する研修会の開催など職員教育を強化し、医療安全に対する知識の向上及び実践に努める
- ウ **新規** 休日における薬剤師による抗がん剤混注業務を開始することにより、病棟で混注業務を実施している医師や看護師への抗がん剤の曝露を防ぎ、医療安全を推進する
- エ **充実** 医療機器管理システム（iM a r c s）に機器使用患者の履歴が確認できるトレーサビリティ機能を追加し、システム改善を図り、また、医療機器購入時には点検計画の策定を義務化するなど安全管理の徹底を図る

○人材の確保・育成と効率的な活用

- ア 職員の職務に対する意欲向上及び人材育成の推進のため、職員の実績を適正に業務評価及び職能評価できるシステムの構築を検討する
- イ 職員として働く意欲、やりがいなどに対する職員満足度調査を実施し、調査結果を分析、課題抽出及び対策を講じることにより、業務の質向上に繋げる
- ウ 専門性の向上を図るために取得した専門医、認定看護師、認定薬剤師、認定技師などの医療職職員の資格取得に対する処遇などの体制を検討する
- エ 医師の事務負担軽減のため、医師事務作業補助者（医療クラーク）の知識向上、体制の拡充を図り、代行入力業務を拡大することにより医師の確保と定着化を促進する
- オ 管理者研修、監督者研修、主任研修など階層別研修を充実させるとともに、全職員を対象としたテーマ別研修会を開催するなど職員研修を実施する
- カ **充実** 良好なチームワークを形成することにより、医療行為全般のパフォーマンスと患者の安全を高めるため、チームステップス研修を実施し、ヒューマンエラー対策に取り組む

○看護師確保への対応

- ア 看護師等修学交付金制度を継続して実施する
- イ 合同就職説明会及び学校説明会への積極的な参加や各看護師養成施設への学校訪問など広報活動を継続して実施し、必要な人材を確保する
- ウ 看護師募集DVD、ポスター、リーフレットの作成など看護職員採用プロジェクトチームを継続し、新規採用者を確保する
- エ ワークライフバランスに配慮した勤務体系の導入を目指すため、二交替制勤務の導入を検討する
- オ 看護学生臨地実習受け入れ校の拡大に伴うリクルート活動の強化やインターンシップ、病院見学会、高校生1日ナース体験事業及び看護師再就業研修の開催など受け入れ事業の拡充を図る

10 事業量計画

(1)入院

年間延べ 190,530 人を予定 (病床利用率 87.0%)

(2)外来

年間延べ 239,120 人、1日平均 980 人を予定 (人工透析を含む)

平成26年度事業量計画

年度	平成26年度 計画(A) 日数365日	平成25年度 実績見込(B) 日数365日	増減 (A)-(B)	平成24年度 実績 日数365日
入院・外来・健診				
1 入院				
計 (606床)	190,530人 522人/日	188,705人 517人/日	1,825人 5人/日	182,168人 499人/日
病床利用率 (606床)	87.0%	86.2%	87.0%	86.4%
平均在院日数	14.0日	14.2日	14.0日	13.7日
診療単価 (1人1日当たり)	60,060円	60,133円	△73円	60,796円
診療収益	11,443,231千円	11,347,398千円	95,833千円	11,504,245千円
2 外来				
計	239,120人 980人/日 実日数244日	232,532人 953人/日 実日数244日	6,588人 27人/日 0日	238,633人 974人/日 実日数245日
診療単価 (1人1日当たり)	14,014円	14,246円	△232円	14,072円
診療収益	3,351,027千円	3,312,651千円	38,376千円	3,358,006千円
3 健診				
特定健診	16,500人/年 68人/日 実数244日	16,500人/年 68人/日 実数244日	0人/年 0人/日 0日	15,605人/年 64人/日 実数245日
胃がん検診	8,900人/年	8,780人/年	120人/年	9,065人/年
大腸がん検診	11,700人/年	11,600人/年	100人/年	11,308人/年
結核肺がん検診	16,000人/年	15,500人/年	500人/年	15,384人/年
子宮がん検診	3,700人/年	3,600人/年	100人/年	3,582人/年
乳がん検診	2,350人/年	2,320人/年	30人/年	2,223人/年

11 経営の質向上に関する事業

(1)収入増加策

ア 平成26年度診療報酬改定に対応した施設基準の取得による診療単価向上への取り組みを行う

新規

- ・短期滞在手術基本料 3
- ・後発医薬品指数（機能評価係数Ⅱ）
- ・がん患者指導管理料 2 及び 3

充実

- ・周術期口腔機能管理料
- ・新生児特定集中治療室管理料
- ・疾患別リハビリテーション料
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・感染防止対策加算
- ・診療録管理体制加算

イ **新規** 経営戦略を担う部署を新設し、原価計算、DPC（診療費の包括払い制度）分析システム等を活用した経営指標の分析・課題抽出を行い、収入増加策と経費削減策を策定する

ウ **充実** 目標値に掲げる病床利用率を達成するため、退院支援スクリーニング及び退院支援カンファランスを活用し、円滑な退院調整による在院日数短縮化を図り、全病床の効率的な管理運営に努める

エ **充実** 化学療法、睡眠時無呼吸症候群及び気管支鏡の検査入院など短期入院の増加による収入増加を図る

(2)費用削減策

ア 後発医薬品（ジェネリック医薬品）の導入促進を図る

イ **新規** 物品管理業務委託における調達支援業務の導入など材料費の削減に努める

ウ 医療の質向上及び医療安全を考慮した職員の合理的な採用と配置を実施し、給与費比率の水準適正化に努める。また、退職者継続雇用制度を活用し、職員の時間外勤務時間の削減を図る

エ 医療機器購入や設備投資の際には、採算性を検討し、調達価格の引き下げを図る

オ 購買支援コンサルティングを活用し、引き続き購買、調達にかかる費用及び委託費の削減を進める

カ **充実** 衛生材料（閉鎖式輸液ライン）の見直しによる経費削減を図る

【関連指標】

項目	平成 26 年度目標
診療材料仕入額削減率	7.0%以上
医薬品仕入額削減率	10.0%以上

【関連指標】

項目	平成 26 年度 計 画	平成 25 年度 実 績 見 込	平成 24 年度 実 績
給与費対医業収益比率	51.8%以下	51.5%以下	50.5%
材料費対医業収益比率	25.2%以下	24.8%以下	23.7%
（薬品費対医業収益比率）	14.0%以下	13.9%以下	13.3%
（診療材料費対医業収益比率）	10.1%以下	10.0%以下	9.6%
後発医薬品使用シェア率	60.0%以上	56.5%以上	—

※給与費は、賞与引当金を除く